

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分
 【発行日】令和 3 年 4 月 8 日 (2021.4.8)

【公開番号】特開 2019-177642 (P2019-177642A)
 【公開日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-042
 【出願番号】特願 2018-69231 (P2018-69231)
 【国際特許分類】

B 2 8 D 5/00 (2006.01)

C 0 3 B 33/027 (2006.01)

H 0 1 L 21/301 (2006.01)

【 F I 】

B 2 8 D 5/00 Z

C 0 3 B 33/027

H 0 1 L 21/78 G

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 2 月 22 日 (2021.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照して説明する。なお、各図には、便宜上、互いに直交する X 軸、Y 軸および Z 軸が付記されている。Z 軸は、カッターホイールの中心軸に垂直である。また、図 2 (a) ~ 図 3 (b)、図 4 (c)、図 5 (a) ~ 図 6 (b)、図 8 (b)、図 8 (c) 中の実線 H は、基板 F の表面 H を示している。また、図 5 (a) ~ 図 7 (c) 中の矢印は、スクライプ方向を示す。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 6 】

回転軸 5 3 を基板 F に対して傾ける、すなわち、ホルダユニット 3 0 を基板 F に対して傾けると、スクライピングホイール 4 0 は、基板 F の表面 H と接触する位置が変わる。たとえば、図 3 (b) において、点 A は、ホルダユニット 3 0 を傾ける前、基板 F の表面 H にスクライピングホイール 4 0 が接触したときの位置である。この点 A に対し、図 5 (a) に示すように、回転軸 5 3 を基板 F に対して傾けた場合、すなわち、軸心 S と基板 F のなす角が 8 5 度の場合、スクライピングホイール 4 0 が基板 F の表面 H と接触する位置は、点 B である。図 5 (a) 中の実線は、点 B を通り且つ回転軸 5 3 と平行な軸 R である。このように、回転軸 5 3 を基板 F に対して傾けた場合、スクライピングホイール 4 0 において基板 F の表面 H と接触する位置が変化する。